

【Bブロック授業研究会】

参加者：鳥取市19名

指導助言：鳥取県教育委員会体育保健課 網本大輔 指導主事
富田 学 指導主事



○協議の柱

「運動が苦手な児童や意欲的でない児童が楽しめたり、児童が主体的に課題解決に取り組んだりするなど、児童にやさしい体育科授業になっているか」

○成果

- ・得意な児童がよくアドバイスできていた。
- ・児童一人一人が楽しく活動していた。「リズムよく跳べることが楽しかった」と授業後に言っていた児童もいた。
- ・教師の見通しが単元全体を通してできていて、児童にもしっかり入っていた。
- ・ICTを活用していた。うまくいかなくても児童に慣れさせることが必要である。
- ・指導観の書き方が分かりやすい。

○課題

- ・ストレッチは、ハードル走につながる動的なものを。
- ・指導案の「学びへの働きかけ」のところは、「～するために、～する」という書き方もできる。
- ・何をもってタイムが縮まったかを児童に考えさせる。
- ・走り終わってアドバイスを受けるまでの時間を短くする。ゴールした直後に話合いでよい。
- ・リズムよく走っているように見えても、抜き足が遅いと、走りの「はさむ」という動きにならない。